

運営会議の外部委員からの意見を反映した主な事例（令和5年度）

運営会議外部委員からの意見	対応・取組
<p>◆ 教員の採用について</p> <p>【意見】</p> <p>教授と准教授、助教のバランス・男女比のバランスが悪く、改善が必要である。</p> <p style="text-align: right;">（令和5年9月8日 運営会議）</p>	<p>【対応・取組】</p> <p>従前からジェンダーバランス、若手雇用などを積年の課題として把握しており、「長期的な教員配置構想」を策定し、当該構想に基づいた採用をおこない、偏りの是正に取り組んでいる。</p> <p>令和5年度は、准教授1名、助教2名、特任助教1名（うち女性3名）を採用した。</p>
<p>◆ 広報について</p> <p>【意見】</p> <p>一般の人々にも分かりやすい、関心のある研究を通して学問の価値を知ってもらう必要がある。</p> <p style="text-align: right;">（令和5年9月8日 運営会議）</p>	<p>【対応・取組】</p> <p>地域のステークホルダーとの繋がりを模索し、京都府及び京都市教育委員会や奈良先端科学技術大学院大学と連携協定を結び、若年層への日本文化研究の成果発信に取り組んでいる。</p>
<p>◆ 今後の研究について</p> <p>【意見】</p> <p>普遍性を持ったアジェンダを構築することが肝要であるため、優れた研究者を世界から集める必要がある。</p> <p style="text-align: right;">（令和5年12月8日 運営会議）</p>	<p>【対応・取組】</p> <p>外国人研究員制度、外来研究員制度を引き続き活用し、優れた研究者を世界各国から受け入れる。</p> <p>また、優れた研究者の育成にも目を向け、博士後期課程学生受入れのための「日文研学術奨励賞」及びポストドクター研究員受入れのための「JF-日文研フェローシップ」を国際交流基金との共同により設立し、令和6年度から海外からの若手研究者受入れを開始する。</p>